

宇部興産における研究開発事例の紹介

宇部興産株式会社 先端技術研究所

松下 敏之

1. 宇部興産株式会社の概要

1897年(明治30)、炭鉱開発のための組合組織として山口県宇部市で創業した UBE グループは、「有限の鉱業から無限の工業へ」という精神のもと、常に自己変革を行ってきました。その後 120 年以上にわたり、お客様やお取引先、株主の方々や地域社会など、関係するすべての方との「共存同栄」を掲げ、一貫して創造性豊かなものづくりに携わっています。

現在、UBE グループの事業は「化学」、「建設資材」、「機械」の各分野に広がり、その製品・技術は自動車部品やデジタル家電、医薬品、家庭用品など皆様の身近なものから、社会インフラの整備まで幅広く活用されています。絶えず自らを変革し、独創的な技術で時代の求めるものづくりに挑戦する精神。そして、より良い社会の実現につながる価値を生み出し続ける企業でありたいという思いを、「**技術の探求と革新の心で、未来につながる価値を創出し、社会の発展に貢献します**」という経営理念に込めています。これを具現すべく、私たちはグループの総力を挙げて取り組んでいます。

2. 宇部興産(株)における研究開発について

UBE グループの研究開発は、創業時の石炭事業の時代から培ってきた合成技術に強みを持っており、それを基盤として発展させながら、今日までさまざまな研究開発を行っています。また、研究開発本部は、中期経営計画「Vision UBE 2025 ~Prime Phase~」の基本方針に沿って、基盤技術及び重点(戦略)技術領域における先端技術力の強化により「環境・エネルギー」、「モビリティ」、「建築・インフラ」、「ヘルスケア」をターゲットとした次世代事業創出ならびに既存事業の維持・強化や周辺事業領域の拡充を推進しています。

本公演では宇部興産(株)における研究開発の事例として、マイクロフロー法を用いた Moffatt-Swern 酸化反応、コア-シェル型金属ナノ触媒の合成について紹介します。
以上